

ガバナンスとは

－ヨハネスブルグで考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：ヨハネスブルグには何をするためにいったのですか。

A：(林明夫：以下省略)第23回民間経済団体国際会議が11月2・3日に南アフリカ共和国のヨハネスブルグ、ヒルトン・サントン・ホテルで開かれ、それに経済同友会(東京)のアフリカ委員会の一員として参加させて頂きました。

世界各国からの代表合計20数名が参加した小規模な会議でしたが、日本からは丸紅副社長を団長に、豊田通商執行役、井上義明三友システムアプレイザル社長、それに私と、2名の経済同友会事務局が参加。「持続可能な未来に向けたビジネス界のリーダーシップ」をテーマに、経済危機を乗り越えるためにビジネス界のリーダーは何をすべきかが、熱心に話し合われました。

通訳なし、使用言語は英語のみでした。

Q：ヨハネスブルグまでは、日本からどのように行くのですか。

A：香港経由でキャセイパシフィックで行く方法もありますが、私はシンガポール経由でシンガポール航空で行きました。日本からシンガポールまで約7時間、シンガポールからヨハネスブルグまで10時間半余りと、片道がほぼ1日かかりでした。

シンガポールからの便は8割位が中国系の方でした。どこへ行っても中国系の方ばかりで、日本人の100倍以上、中国の方がいらっしゃるような気がいたしました。

Q：2010年夏にはワールド・カップが南アフリカであります、準備はどうですか。

A：ヨハネスブルグやケープタウンの飛行場や競技場周辺は、まさに建築ラッシュそのものでした。何としてでも間に合わせようと街中が沸き立っていました。建築面での準備はほぼOKと言えるように思います。

問題は治安です。ホテルのセイフティ・ボックスの中に貴重品を入れて大丈夫かということが真剣に議論され、正答は、入れてはいけない、常に身につけておくべしと言われるほど治安の維持は厳しいようです。ワールド・カップ会期中は、国内に戒厳令のようなものが出され、軍隊まで総動員して治安維持に当たるとは思いますが、ワールド・カップを見学、応援に行く予定の方は、くれぐれも現地ガイドの方の指示に従い、慎重な行動が求められます。

Q：ネルソン・マンデラ氏が大統領になり、治安は回復したのではないのですか。

A：アパルトヘイトの撤廃や民主主義の導入と、治安の維持・向上はあまり関係ないようです。

治安を維持する担当者に汚職(英語で corruption、コラープションと言います)が蔓延していて、

また、銃も届け出だけで自由に所持できることが根本原因のようです。

教育予算の何割かを、教育行政担当者や学校長がポケットに入れてしまい、子供たちを教える先生が雇えず、学校で子供たちが学ぶ機会が奪われているという話を至る所で耳にしました。

10年ほど前に、同じ南アフリカのダーバンで開かれたドイツの NGO、TI(トランスペラシエ・インターナショナル)主催の腐敗撲滅世界会議(Anti-Corruption Conference アンティ・コラプション・カンフェランス)に参加した際、マンデラ氏が南アフリカから腐敗をなくすと強く演説したのを間近で聞いて感激をしたことがあります。道はなかなか険(けわ)しいように思われます。

Q：なぜ、このようになってしまったのでしょうか。

A：アパルトヘイトが敷かれたときはごく一部の白人が富の大部分を収奪していたようですが、アパルトヘイトが撤廃された今日でも、富の大部分が一部の人に集まる状況にあまり変化はないようです。そのような人々が蓄財をして、自分と家族を守るために要塞(ようさい)のように厳重なセキュリティで守られた一部地域で暮らしています。

国を統治するしくみ、ガバナンスがいまだに著しく欠如しているから、富の配分も大きな問題があっても直すことができず、それが治安が極めて悪い状況をもたらしているように私には思えます。

Q：ヨハネスブルグは住み易いのですか。

A：標高 1600 メートル以上の高地なので極めて天候はよいようですが、抱えている問題が大きすぎて、安心して住める所とはほど遠いように私には思われます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお伝えすることはありますか。

A：私はこの旅行中、内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」と「代表的日本人」の2冊の岩波文庫ワイド版を持ち歩き、折に触れて読んでいました。

その2冊の本を通して、自分が死んだ後、何を後の世に遺せるのか、お金か、企業か、思想・著作か、人々への教育か、生き方・生き様か。それを西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の5人の代表的日本人はどう後の世の我々に示しているのかを考えていました。

教育の大切さを考えるならば、我々はもっと積極的に、人としての生き方、やってよいこと、悪いことを子供たちに伝え、また、南アフリカも含め世界の人々に伝えてもよいような気がいたします。

教育関係者が子供たちへの教育予算を使い込むなど、許し難いことだと私は思います。

皆様はどうお考えになりますか。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

— 2009年11月20日林明夫記 —